

第1回委員会における委員・参考人からの主な意見1

1. 原因の究明

- ◆ 流行時の疫学調査の内容(届出、報告、検査等)
- ◆ 海外渡航者に対する調査とアプローチ
- ◆ 流行予測調査への政令指定都市の追加

2. 発生の予防及びまん延の防止

- ◆ ワクチンによる予防と接種率の維持継続の重要性の認識
- ◆ 効率的な予防接種施策に関する数理モデルを含めた解析
- ◆ 抗体価が不明な方への検査実施と、予防行動につながる指導
- ◆ 感受性者をターゲットにした予防接種の実施と費用助成
- ◆ 学校を通じた感染症情報の収集と流行状況の把握
- ◆ 就学前の予防接種歴、既往歴の確認と必要な情報の提供
- ◆ 子どもと家族への情報提供、地域の母子保健や行政との連携
- ◆ 多くの企業では産業医等の専門職がない中で、どのような協力が要請できるのか検討が必要
- ◆ 出勤の可否等に関する地域開業医等による指導の徹底と判断

3. 医療の提供

- ◆ 風しんの早期診断の必要性
- ◆ 患者会等から直接話を聞く機会
- ◆ 内科医に風しんの診断のための適切情報提供
- ◆ CRSの早期発見と発見後の対応

第1回委員会における委員・参考人からの主な意見2

4. 研究開発の推進

- ◆ 職場での流行のメカニズム調査と必要な対策の実施
- ◆ CRS児のウイルス排泄、感染経路の研究実施
- ◆ 流行の原因に関する人口疫学的な調査の実施

5. 国際的な連携

- ◆ 同様の流行は海外でも生じうる状況であることの情報の発信
- ◆ 流行の評価を行うための遺伝子検査の必要性

6. その他

- ◆ 企業における一次予防対策の利点の評価と予防行動に繋がる指導と啓蒙
- ◆ 予防の費用対効果を含め、目標年を定めて実行性のある現実的な内容を盛り込む
- ◆ 恒常的に評価を行う仕組みの構築
- ◆ 健康教育の指導と学習(実践力について)
- ◆ 母子保健事業の中での予防接種に関する勧奨と積極的な情報提供
- ◆ 分かりやすい資料の提供と啓発活動の継続
- ◆ 海外からの輸入症例に対する対策
- ◆ 成人は医療アクセスが悪いため効率的に医療提供できる方法を検討